

作業部会、委員会

現在、ITA では 12 の作業部会と 3 つの委員会が活動している。今回の参加者は総勢約 130 人で前回 (2007 年プラハ) の約 250 名に比べて少なかった。参加者は各国の代表機関から推挙された人となっており、日本は JTA が窓口で対応者を決めているが、とくに制約はなく、多くの国は活動に興味を持った人が自由に参加している。

作業部会や委員会への参加は国際会議での講演発表などではない方法で情報発信や情報収集ができる。これらの活動を通じて日本の技術、手法、考え方を理解してもらう良い機会と考えられる。ゼネコン、コンサルタント、メーカーなどでとくに海外経験を積んでいる方はこの作業部会や委員会の活動に興味を持って頂き、活用を検討していただきたい。

ITA アグラ報告 WG12 吹付けコンクリート

電気化学工業㈱ 石田 積

部会長 ; T. Celestino (ブラジル)、副部会長 ; 石田 積 (日本)、チューター ; E. Grov (ノルウェー)

12 カ国 (チェコ、エジプト、フィンランド、フランス、韓国、南アフリカ、スウェーデン、スイス、タイ、日本、ブラジル) から 18 名が参加した。

20 カ国の情報を集めた吹付けコンクリートの調査報告書が ITA のホームページから電子ファイルで入手できる状況にあり、現在さらに写真やイラストを加えたホームページ上での閲覧バージョンを作成している。会合では内容の更新も話し合い、今後改訂版を作成する予定。

繊維補強吹付けコンクリートの繊維評価を継続しており、次期試験を計画中。現時点の結果を取りまとめて公開し、新たに繊維メーカーに試験参加を募る予定。なお、試験結果の一部は 2008 年 4 月にノルウェー・リレハンメルで開催した吹付けコンクリートの国際会議で報告があった。

耐火吹付けモルタルの調査成果は ITA のイギリスの活動報告ホームページで確認でき、新しい材料があれば更新できる。

吹付けノズルマンの資格や能力認定の調査と普及を図っており、昨年の WTC でフランスのメンバーが論文を報告した。EFNARC (特殊建設用化学製品とコンクリートシステムに関するヨーロッパ連邦) が吹付けコンクリートの指導者を認定する課程を検討しており、本 WG と協調しながら認定の考え方を PR し、普及に努める。

吹付けコンクリートの養生と現場での耐久性評価の実態を調査し、討議した。南アフリカのメンバーがテーマを提起し、現状の報告があり、今後 WG12 で作業を進め、報告にまとめる予定。養生方法は、散水、温度制御、混和剤、特殊な軽量骨材、膜などの報告がある。現場での耐久性評価はコンクリートの空隙と透過性を評価する方法があり、北米と南アフリカで実績がある。

吹付けコンクリートに関連する用語集が EN206-1 : 2000 にあり、内容を調査した。現在、日本語やチェコ語を加えた改訂版を更新している。フランスは更に各用語の定義を含めて作成しており、年内に完成する予定。

本 WG では吹付けコンクリートに関わる多種多様なテーマで調査研究活動しているが、基本的にはヨーロッパが情報発信源であり、ヨーロッパから全世界に情報が広まる構図になっている。日本のトンネル技術を広めるには個々の研究機関や企業が日本発で情報発信するだけでなく、ITA 作業部会を活用した情報発信も効果があると考えられる。

以上